

真宗興正派
本山興正寺

報恩講

やっぱり阿弥陀さん

令和5年
(2023)

11月21日(火)～28日(火)

午前7時 晨朝勤行
午前10時 日中法要
午後2時 続夜法要
午後4時 初夜勤行

※21日の日中法要と28日の続夜法要はございません。



本山興正寺 🔍 検索

真宗興正派 本山興正寺

〒600-8261 京都市下京区堀川通七条上ル
TEL 075-371-0075 FAX 075-371-8509



報恩講に寄せて

真宗興正派宗務総長 秦 直樹



本山報恩講によるこそお参りくださいました。

長らく続いたコロナ禍の生活もようやく終わり告げ、世の中はコロナ禍前の日常を取り戻しつつあります。本山興正寺におきましても昨年は5年ぶりに通常どりの報恩講を勤めさせていただくことが出来ました。

コロナ蔓延の期間、人は顔をマスクで覆い、人と人との間にはアクリル板が立てられ、距離も隔てられ、この間生じた隙間や溝は深さをどんどん増して行ったように思われます。

人と人が分断される中、社会活動は停滞を余儀なく

され、今まで行っていた当たり前の生活は大きく変化せざるを得なくなりました。私たち真宗の門徒にとりましても、ご自宅にお坊さんを招いてお経をいただくこと、

葬儀や仏事にたくさんの人に弔問に来てもらうこと、お寺にお参りすること、布教使さんのお話を聞くことなどお寺との繋がりも、感染拡大のリスクを避けるためにと自粛の方向に向かわざるを得ない状況でした。

さて、コロナ禍も終わりを迎え、元の生活を取り戻しつつある私たちはどうでしょう。しばらく足が遠のいていた本山へお参りすること、宗祖親鸞聖人の報恩講で報恩感謝のお念仏につつまれること、興正派の僧侶一人一人、ご門徒一人一人がしっかりとお念仏をいただき、お寺との繋がりを見つめ直し、コロナ後の新たな日常を作る時が来たのだと思います。

本日宗祖親鸞聖人報恩講にお参りをくださいました皆様を心より歓迎申し上げ、ご参詣の皆様と共にこの報恩講にて「聞く、喜ぶ、伝える」ことの幸せを分かち合うご縁となりますことを念じております。

報恩講とは?



親鸞聖人の御命日である11月28日をご縁に、90年にわたる聖人のご苦勞をお偲びし、そのご恩に感謝する法要が「報恩講」です。聖人のご恩に感謝する中で、聖人があきらかにされた真実の「み教え」をたずね聞かせていただき、共にお念仏をよるこぶことこそが報恩講の大切な意義です。

真宗門徒にとって、報恩講は最も大切な法要であります。

親鸞聖人ってどんな人?



親鸞聖人は、平安末期から鎌倉初期という激動の時代を生き、真実の浄土の教えをあきらかにしてくださった、浄土真宗の御開山(開祖)です。

聖人は9歳の時に「真実の救いの道」を求めて出家し、20年にわたって比叡山で厳しい修行を積まれますが、真実の道を得ることは出来ませんでした。しかし、聖徳太子の導きによって法然上人と出会い、「ただ念仏して弥陀にたすけられよ」という浄土真実の大道に入られたのです。それ以来、90年の御生涯を閉じるまで、専らに念仏の「み教え」を説き示し、お伝えくださいました。

令和5年 報恩講 御堂法話



福井県
北岑 大至

11月21~24日



鹿児島県
川畑 法英

11月25、26日



香川県
佐々木 安徳

11月27日、28日